

令和4年度 共同研究報告書

研究区分		一般共同研究		
研究課題名		ウイルス感染を予防するワクチン投与及び感染がん治療を最適化する新規マイクロ RNA の探索と同定		
新規・継続の別		新規 ・ 継続		
研究代表者	所属	聖路加国際大学 医科学研究センター	40歳以下○	35歳以下○
	職名・氏名	研究員・大竹淳矢	○	
研究分担者 (適宜行を追加して下さい)	所属		/	/
	職名・氏名			
	所属		/	/
	職名・氏名			
受け入れ教員	職名・氏名	准教授・北村 秀光		
概要 (100～150字程度)		<p>本研究で、各種臨床検体を使用し、特徴的なマイクロ RNA の発現レベルと各種感染がん患者の病態、転移の有無、がん治療効果および生命予後との相関関係を明らかにする。本研究の推進により、各種感染がんの治療や再発を予防、改善・治療する新たな知見、方策を提供する科学的エビデンスの蓄積を目指す。</p>		
研究目的 (300字程度)		<p>本共同研究では、細胞性 (Th1 型) 免疫あるいは液性 (Th2 型) 免疫を調節する機能性マイクロ RNA に着目し、被験者の免疫応答性の評価判定を可能とする新規バイオマーカーとしての有用性を証明する。また、マイクロ RNA とその下流標的分子による免疫応答制御メカニズムを明らかにする。本共同研究の遂行により、免疫応答性を簡便かつ精度・感度良くに判定できる標準化された解析法を確立するとともに、健常者や感染がん患者におけるワクチン投与の有効性や重篤な副反応の発生、治療効果を予測する新規免疫モニタリングシステムを構築し、ウイルス感染症や感染がんの予防や治療を最適化することを目的とする。</p>		
研究内容・成果 (1000字程度・Web 会議の回数も記載)		<p>本研究では、被験者個々の免疫状態を判定する新規バイオマーカーとして当該マイクロ RNA を活用するため、Th1 型および Th2 型に偏りのある疾患として知られている関節リウマチ (RA) の患者とコントロールである疾患を持たない健常者において、Th1 型あるいは Th2 型免疫応答を制御する機能を有するマイクロ RNA の発現に差異が生じるかを検討した。その結果、患者と健常人の間でマイクロ RNA の発現に差は認められなかった。これは、現段階で、解析検体数が少数例であることや、患者の中でも病態が治療状況により異なることが原因として考えられた。</p> <p>今後、臨床検体および健常人の血液検体のバックグラウンドを精査することで、多施設において当該マイクロ RNA の解析、評価を</p>		

	<p>行うことが可能となると考えられ、今後、より幅広い被験者、症例を対象として、免疫状態の解析、評価を行うこととした。</p> <p>本共同研究成果の一部については、これまで専門科学雑誌 (*, # Precision Medicine 3:386-390, 2020) に掲載されるとともに、令和4年度において、第19回 日本免疫治療学会学術集会(2022年5月22日)にて発表を行なった。さらに現在、共著論文の作成に着手し、現在、国際専門科学雑誌への投稿を予定している。</p> <p>本共同研究の遂行にあたり、貴研究所に1回訪問するとともに、Web 会議を1回実施し、実験結果や進捗状況について、意見交換やディスカッションを行った。</p>
成果	<p>【学会報告】 1. 北村秀光, 大竹淳矢, 大野陽介, 本間重紀, 武富紹信, 機能性マイクロ RNA による, 第19回 日本免疫治療学会学術集会, 東京, 2022年5月22日</p> <p>【論文発表】 令和4年度 なし</p> <p>【新聞報道】 令和4年度 なし</p>